

合志楓の森中ハンセン病題材に劇披露 「差別と闘える人に」

2023. 11 . 16 熊本日日新聞朝刊 地域総合ページ

合志楓の森中（合志市）の3年生約120人が12日、同校の学習発表会で、ハンセン病問題の歴史を題材にした劇を披露した。在校生や保護者、地域の住民代表らに差別や偏見を繰り返さないよう訴えた。

ハンセン病患者が療養所に強制隔離されていた時代に罹患〔りかん〕した女子中学生が主人公。きょうだいも療養所に入所したことで、姉は婚約を破棄され、兄は就職を拒まれるなど差別を受け、家族がばらばらになっていくのを、生徒たちが気迫のこもった演技で披露した。

シナリオは、学校の隣にある国立ハンセン病療養所・菊池恵楓園の歴史資料館や入所者自治会のDVD、ハンセン病家族訴訟の証言などを基に学校が制作。入所者や学識者らにも目を通してもらい、事実を即した内容に作り上げた。朗読や合唱もあり、最後に生徒たちが「差別と闘える人になりたい」「正しい知識を持ち、差別をなくす取り組みを続けたい」と語りかけた。御代志区の祇園田征士区長は「内容が作り込まれていて涙が出た。学校にとどまらず、地域でも上演してほしいくらいだ」とたたえた。（深川杏樹）